

ノーリフティング推進についてのチェック表

事業所名												
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業所の状態を記載（日付）してください。その後進捗状況に合わせて記録してください。

項目	0.実施していない	1.不十分だが実施している	2.実施している	3.より良く実施できている
管理者	管理者が取り組みを認めていない、または管理者は関与できていない。	管理者が活動を確認しているが、関与できていない。	管理者自らが必要性を感じ普及促進に向けて行動している。	管理者自らがノーリフティング普及推進リーダーとしての役割を果たしている。
推進チームの存在	委員会の立ち上げが認められていない。	チームはあるが、組織内で認められたものではない。	組織内で認められた委員会があり、組織の体制づくりやリスクの解決に向けて活動している。	委員会があり、定期的な会議が開催され、組織全体のリスクマネジメントを実践している。マニュアルも完備している。
リスクマネジメント	リスクマネジメントはできていない。	リスク抽出はしているが、計画立案から実践、評価、改善など対応が不十分である。	リスク抽出し、計画立案から実践、評価、改善など実践できている。	2にあげた体制で取り組みが出来ており、さらに日々職員からもリスクの抽出が積極的になされている。
職員の健康管理	職員の腰痛予防のための調査や対策は特にしていない。	腰痛調査はしているが定期的には実施できておらず、リスク者への対策もできていない。	定期的に腰痛調査をし、リスクのある職員への対応もしている。	2の状態にあり、かつ、新入職員には配置前に実施している。腰痛は減少、または悪化が見られなくなっている。
対象者のアセスメント・プランニング	ノーリフティングの視点を持ったアセスメント・プランニングの体制ができておらず実施していない。	ノーリフティングの視点も考慮しアセスメントの流れに沿ってプランニングし、ケア実践ができているが、完全に周知徹底できていない。	流れの体制は完備され、内容もノーリフティングの視点でアセスメント・プランニングがされ周知徹底、統一したケアが実践されている。	2の体制で取り組みが出来ており、かつ、日々の中でリスクがあればすぐにケアの見直しができる体制がある。
職員教育	教育体制ができておらず、職員はノーリフティングの目的や必要性を理解できていない。	職員はノーリフティングケアの目的や必要性を理解しているが実践はまだ不十分である。	教育体制ができており、計画的に実施されている。職員はノーリフティングの目的や必要性を理解して身を守る身体の使い方や決められたケアや作業方法を守り実践できている。	2の状態、新入職員には配置前に、経験者にも定期的にチェックが行われている。職員自らがリスクを抽出する習慣が身についている。
福祉用具の導入	必要な用具が不足しており、導入予定もなく、リスクの高い対象者も介護者一人での抱え上げをしている。	用具は不足しているが、複数での介助など代替手段で負担軽減できている。導入の計画は立案できていない。	不足している用具もあるが、導入計画は立案され、不足しているものは、代替手段（複数での介助）で実施している。担当による用具の管理もできている。	必要な用具はほぼ充足しており、担当による用具の管理もできている。身体的負担のある抱え上げ介助はゼロになっている。